食物嗜好に関する意識調査

園 田 真 人, 馬 場 香代子*

北九州市環境衛生研究所, 九州女子大学*

Studies on Food Preference in Children, Adolescents and the Elderly

Makoto Sonoda and Kayoko Baba*

The Kitakyushu Municipal Institute of Environmental Nealth Sciences

* Kyushu Women's University

は じ め に

人間の食物嗜好に影響を及ぼす因子は、きわめて多彩であり、年齢、性別、健康状態、生活習慣、栄養知識、マスコミの影響、摂食の経験などが考えられるが、嗜好調査においては、その方法、時期、環境も成績を大きく左右するであろう。しかしながら、食物嗜好は人間の食生活を左右する因子でもあるので、個人や地域住民あるいは国民の食生活や栄養状況を把握する上で、避けて通れない課題である。

われわれは、今回に至るまで、幼稚園児¹⁾²⁾、学生、生徒²⁾³⁾、妊婦⁵⁾、老人⁶⁾⁷⁾などを対象として、食物嗜好の調査を行い、老人の毎日食べたい物は、野菜、果物が上位を占めるが、高校生は、果物、アイスクリーム、牛乳が上位を占め、老人と若者の食物嗜好は、かなり異なることをみとめた。

本調査は、ひとつの嗜好調査の方法としていちばん食べたい物、いちばん食べたくない物はなにか、という質問を行い、分析を計画し、小学生、成人(18歳から33歳までの年齢)、老人を対象に調査し、考察を加えたので、その結果を報告する。

調査対象及び調査方法

調査対象は、北九州市の某小学校6年生(男子68例、女子85例)、某女子短期大学学生519例、18歳より33歳までの地方公務員(男子173例、女子60例)、65歳より80歳までの年齢層の老人クラブ会員(男子183例、女子279例)、計1,367例である。

調査方法は、調査用紙を作成し、年齢、性別、及びいちばん食べたい物、いちばん食べたくない物を、それぞれひとつだけ記入させて、すぐに回収した。

調査期日は、昭和54年4~6月であり、時間は、午後1~2時に行った。但し、保母においては、午前11時に行った。

調査成績及び考察

1. いちばん食べたい物

① 小学生について

本調査の小学生男子の「いちばん食べたい物」は、表1に示すように、肉料理(26.5%)、果物(19.1%)、アイスクリーム(13.2%)、とくになし(13.2%)

表 1 小学生男子のいちばん食べたい物

食 品 名	例 数	百分率 (%)
肉 料 理	18	26.5
果 物	13	19.1
アイスクリーム	9	13.2
とくになし	9	13.2
デ ザ ー ト	4	5.9
カ レ ー ラ イ ス	3	4.4
寿 司	3	4.4
冷 たい 飲 み 物	3	4.4
ラ ー メ ン	2	2.9
う な 井	1	1.5
ハ ン バ ー ガ ー	1	1.5
え び フ ラ イ	1	1.5
生 野 菜	1	1.5
計	68	100.0

表 2 小学生女子のいちばん食べたい物

食 品 名	例 数	百分率 (%)
果 物	20	23.5
アイスクリーム	16	18.3
菓 子	13	15.3
肉	8	9.3
とくになし	8	9.3
野 菜	5	5.9
味覚の良いもの	4	4.7
スパゲティ	2	2.4
洋 風 料 理	2	2.4
寿 司	2	2.4
シ チ ュ ー	2	2.4
何 で も	1	1.2
ギ ョ ウ ザ	1	1.2
ピ ザ	1	1.2
計	85	100.0

%)が上位を占めている。

小学生女子における「いちばん食べたい物」は、表2に示すように、果物(23.5%)、アイスクリーム(18.8%)、菓子(15.3%)、肉(9.3%)、とくになし(9.3%)が上位を占めている。

小学生の食物嗜好は、学校給食の調査として行われることが多く、以前行ったわれわれの調査³⁾では、小学生の好きな食品は、リンゴ、ハム、トマト、豆腐が上位を占めており、本調査とはやや異なっている。

具体的な品名をあげて、その中から選ばせた調査³⁾と本調査のように抽象的な質問調査の差かもしれないので、今後の検討課題である。

本調査における小学生の「いちばん食べたい物」の分布は、男女差はほとんどみられない。

② 地方公務員について

18～28歳の男子地方公務員における「いちばん食べたい物」は、表3に示すように、果物(26.6%)、肉(17.3%)、とくになし(13.3%)菓子(10.4%)が上位を占めている。

20～33歳の女子地方公務員における「いちばん食べたい物」は、表4に示すように、菓子(26.7%)、果物(26.7%)、アイスクリーム(13.3%)、肉(6.6%)が上位を占めている。

表 3 18～28歳の公務員男子の食べたい物

食 品 名	例 数	百分率 (%)
果 物	46	26.6
肉	30	17.3
とくになし	23	13.3
菓 子	18	10.4
米 料 理	14	8.1
麵 類	13	7.5
魚	10	5.8
軽 食	8	4.6
大豆製品	3	1.6
野 菜	2	1.2
夕 食	2	1.2
茶わん蒸し	1	0.6
チ ー ズ	1	0.6
豆 腐	1	0.6
味覚の良いもの	1	0.6
計	173	100.0

表 4 20～33歳の公務員女子のいちばん食べたい物

食 品 名	例 数	百分率 (%)
菓 子	16	26.7
果 物	16	26.7
アイスクリーム	8	13.3
肉	4	6.6
寿 司	3	5.0
野 菜	2	3.3
チャンポン	2	3.3
ピザトースト	2	3.3
とくになし	2	3.3
フランス料理	1	1.7
茶わん蒸し	1	1.7
うどん	1	1.7
煮 付 け	1	1.7
冷 たい 物	1	1.7
計	60	100.0

表5 女子短期大学生のいちばん食べたい物

食 品 名	例 数	百分率 (%)
果 物	91	17.5
アイスクリーム	60	11.6
米 料 理	49	9.4
軽 食	47	9.0
肉 料 理	44	8.5
ケ ー キ	42	8.1
母の手料理	32	6.2
菓子・デザート	31	6.0
野 菜 料 理	28	5.4
とくになし	16	3.1
パ フ ェ	15	2.9
冷たい飲み物	14	2.7
魚 料 理	12	2.3
味覚の良いもの	11	2.1
中 華 料 理	6	1.1
卵 料 理	6	1.1
グラタン料理	5	1.0
レストラン料理	5	1.0
温 い 飲 み 物	3	0.6
み そ 汁	2	0.4
計	519	100.0

表6 老人クラブ会員男子のいちばん食べたい物

食 品 名	例 数	百分率 (%)
とくになし	67	36.7
果 物	29	15.9
魚 類	23	12.6
野 菜	19	10.4
肉 類	15	8.2
甘 い 物	6	3.3
和風米料理	6	3.3
麵 類	4	2.2
大 豆 製 品	3	1.7
酒	2	1.1
酢 の 物	2	1.1
海 草	1	0.5
つ ま み	1	0.5
お 茶	1	0.5
中 華 料 理	1	0.5
食 事	1	0.5
油 物	1	0.5
そ の 他	1	0.5
計	183	100.0

男子公務員と女子公務員を比較すると、上位に菓子、果物、肉があることは共通しているが、男子において、とくになしという者が13.3%もみられることは、注目される。

小学生の成績で述べたように、本調査の質問では、すぐにイメージとして出てこない、とくになしと答える傾向を示すのかもしれない。

③ 女子短期大学生について

女子短期大学1年生の「いちばん食べたい物」は、表5に示すように、果物(17.5%)、アイスクリーム(11.6%)、米料理(9.4%)、軽食(9.0%)、肉料理(8.5%)が上位を占めている。

母の手料理、冷たい飲み物、味覚的に快い物など、女子短期大学生においても、抽象的なものが12%もみられる。

女子短期大学生と20～33歳の地方公務員女子において、「いちばん食べたい物」の分布は、例数が異なるので、直接的には比較できないが、大体において似た分布を示している。

④ 老人クラブ会員について

老人クラブ会員男子における「いちばん食べたい物」は、表6に示すように、とくになし(36.7%)、果物(15.9%)、魚類(12.6%)野菜(10.4%)、肉類(8.2%)が上位を占めている。

老人クラブ会員女子における「いちばん食べたい物」は、表7に示すように、とくになし(37.3%)、果物(24.0%)、魚類(8.2%)、野菜(8.2%)、和風米料理(5.0%)が上位を占めている。

老人における「いちばん食べたい物」の分布を、男女別に比較すると、ほとんど差はみられない。

とくに注目されるのは、「いちばん食べたい物」が、とくになしという者が37%もみられることで、老人は食物に対する関心度が低いのか、あるいは意識としてのイメージが弱いのか、2つの理由が考えられる。

われわれの老人の嗜好調査(1972)⁶⁾では、具体的に食品名を20並べて、好きか嫌いかを質問したのであるが、好きな物は、男は、果物、刺身、天ぷら、すき焼きが上位を占め、女は、果物、ちらしずし、お浸し、刺身が上位を占めており、本調査の分布とやや異なっている。

具体的な品名ごとに質問する方法が、本調査のように抽象的に「いちばん食べたい物」と質問するよりも、好き嫌いを正確に知ることができる。

しかし、抽象的な質問の特徴として、意識的なものを知ることができる。すなわち、「いちばん食べたい物」がとくにないと答えた者は、小学生では13.2% (男子), 9.3% (女子), 地方公務員では13.3% (男子), 3.3% (女子), 女子短期大学生は3.1%, 老人では36.7% (男子), 37.3% (女子) であり、これは老人特有のパターンかもしれない。今後の検討を要することである。

2. いちばん食べたくないもの

① 小学生について

小学生男子における「いちばん食べたくない物」は、表8に示すように、野菜(47.1%), とくになし(19.1%), 肉(11.8%), 魚(5.9%) というものが上位を占めている。

小学生女子における「いちばん食べたくない物」は、表9に示すように、野菜(41.2%), とくになし(18.8%), 肉(16.5%), 和風料理(4.7%) が

表8 小学生男子のいちばん食べたくない物

食 品 名	例 数	百分率 (%)
野 菜	32	47.1
と く に な し	13	19.1
肉	8	11.8
魚	4	5.9
食べられないもの	3	4.4
納 豆	2	2.9
中 華 料 理	2	2.9
和 風 料 理	2	2.9
ロールキャベツ	1	1.5
ぜ ん ざ い	1	1.5
計	68	100.0

表7 老人クラブ会員女子のいちばん食べたい物

食 品 名	例 数	百分率 (%)
と く に な し	104	37.3
果 物	67	24.0
魚 類	23	8.2
野 菜	23	8.2
和 風 米 料 理	14	5.0
肉 類	9	3.2
菓 子	8	2.9
和 風 料 理	7	2.5
すべての食物	6	2.1
味覚の良い物	5	1.8
麵 類	5	1.8
栄養のある物	3	1.1
乳 製 品	2	0.7
油の少ない物	1	0.3
洋 風 料 理	1	0.3
茶	1	0.3
そ の 他	1	0.3
計	279	100.0

表9 小学生女子のいちばん食べたくない物

食 品 名	例 数	百分率 (%)
野 菜	35	41.2
と く に な し	16	18.8
肉	14	16.5
和 風 料 理	4	4.7
チ ー ズ	3	3.4
菓 子	3	3.4
魚 介 類	2	2.4
卵	2	2.4
ス ー プ	2	2.4
あ つ い 物	1	1.2
納 豆	1	1.2
パイナップル缶詰	1	1.2
食べられないもの	1	1.2
計	85	100.0

上位を占めている。

前述のように、本調査においては、「いちばん食べたくない物」という質問のため、多くの食品名が記入されている。これを表1にまとめるために、ピーマン、キャベツ、にんじん、パセリなどと記入されたものを野菜として一括分類したもので、回答の中には、野菜という表現は使用されていない。

以下、女子短期大学生、地方公務員において同様の分類を行っている。

いずれにしても、小学生の男女とも、野菜が「食べたくない物」の首位を占めていることは問題である。

わが国の栄養改善のひとつのテーマとして、野菜の摂取は、永い間重点的に指導されたはずである。実際に野菜の摂取が不十分であるとすれば、大きな課題である。

われわれの学校給食調査³⁾においても、嫌いな食品のトップにピーマン、にんじん、グリーンピースがみられ、学年による差がみられなかった。

野菜がただ意識として嫌いなのか、日常生活においても摂取していないかは、本調査及び学校給食調査³⁾では不明であり、重要な課題であるので、改めて、調査を行い検討したい。

② 地方公務員について

18～28歳の地方公務員男子における「いちばん食べたくない物」は、表10に示すように野菜 (24.8%)、とくになし (19.7%)、ゴキブリ、マムシ、蛇などの食物でないもの (16.2%)、魚 (9.8%)、肉 (6.4%) が上位を占めている。

20～33歳の地方公務員女子における「いちばん食べたくない物」は、表11に示すように、野菜 (21.6%)、肉 (16.6%)、納豆 (13.3%)、とくになし (11.7%) が上位を占めている。

すなわち、今回の調査対象の地方公務員男子の「いちばん食べたい物」は、肉、果物であり、「食べたくない物」は、野菜であり、同じく地方公務員女子の「いちばん食べたくない物」は、野菜、肉、納豆という

表 10 18～28歳の地方公務員男子のいちばん食べたくない物

食 品 名	例 数	百分率 (%)
野 菜	43	24.8
とくになし	34	19.7
食物でない物	28	16.2
魚	17	9.8
肉	11	6.4
大豆製品	9	5.2
菓 子	7	4.0
味覚的に不快な物	4	2.3
洋風料理	4	2.3
和風料理	4	2.3
チーゾ	3	1.7
揚げ物	3	1.7
中華料理	2	1.2
海 草	2	1.2
コーヒー	1	0.6
卵	1	0.6
計	173	100.0

表 11 20～33歳の地方公務員女子のいちばん食べたくない物

食 品 名	例 数	百分率 (%)
野 菜	13	21.6
肉	10	16.6
納 豆	8	13.3
とくになし	7	11.7
魚	6	10.0
菓 子	4	6.7
中華料理	2	5.0
洋風料理	2	3.3
チーゾ	2	3.3
そ ば	1	1.7
パ ン	1	1.7
カレーライス	1	1.7
ビール	1	1.7
値段の高い物	1	1.7
計	60	100.0

ことになる。

以上のように、小学生と同様、地方公務員男女とも、野菜を「いちばん食べたくない」と答えた者が上位を占めていることは注目される。

すでに述べたように、意識として嫌いなのか、日常生活においても摂取しないのか、これも大きな課題をもっている。

実態を知るには、集団給食あるいはレストランなどで、摂食行動の観察などが良いかもしれない。

地方公務員女子の「いちばん食べたくない物」に納豆が13.3%もみられ、小学生は1.2%(男子)、2.9%(女子)、老人クラブ会員男子は1.1%、地方公務員男子(18~28歳)はまったくみられないのに比較すると、高率である。

しかし、さきにわれわれが調査した地方公務員男子⁹⁾(40~60歳)でも、「いちばん食べたくない物」に納豆、にんじんが上位を占めていた。

このような成績が北九州地方で特有かどうかは、今後の研究課題である。

③ 女子短期大学生について

女子短期大学1年生における「いちばん食べたくない物」は、表12に示すように、野菜(22.9%)、肉(18.1%)、魚(11.9%)、とくになし(11.4%)、食物でない物(10.6%)、と答えた者が上位を占めている。

女子短期大学生と20~33歳の地方公務員女子における「いちばん食べたくない物」を比較すると、女子短期大学生において食物でないものが10.6%もみられるのを除くと、大体において似た分布を示している。

女子短期大学生において食物でないものが多くみられ、地方公務員男子においても16.2%が食物でないものがみられたのは、この調査が行われた約1カ月前に、テレビと映画で同時に、人肉を食べる場面や、蛇やとかげを食べる場面が上映され、印象づけられたためと考える。

このように、マスコミによる影響は、一時的かも知れないが、無視できないものであることを示している。

女子短期大学生の「いちばん食べたい物」は、果物、アイスクリーム、米料理、軽食、肉料理であり、「いちばん食べたくない物」は、野菜、肉、魚ということになる。

ここにおいても、小学生、地方公務員において指摘したように、野菜が上位を占めていることは注目され、野菜だけでなく、肉、魚など意識として嫌いなのか、日常生活においても摂取しないのか、具体的な調査が必要である。

表 12 女子短期大学生のいちばん食べたくない物

食 品 名	例 数	百分率 (%)
野 菜	119	22.9
肉	94	18.1
魚	62	11.9
とくになし	59	11.4
食物でない物	55	10.6
菓 子	29	5.6
大 豆 製 品	21	4.1
寮 の 食 事	16	3.1
軽 食	16	3.1
乳 製 品	12	2.3
味覚的に不快な物	12	2.3
卵	9	1.7
米 料 理	7	1.3
ジ ュ ー ス	3	0.6
中 華 料 理	2	0.4
菓 物	1	0.2
調 理 食 品	1	0.2
計	519	100.0

表 13 老人クラブ会員男子のいちばん
食べたくない物

食 品 名	例 数	百分率 (%)
とくになし	95	51.9
魚 類	18	9.8
味覚や感覚的に 不快な物	17	9.3
野 菜	12	6.7
肉 類	12	6.7
油っこい物	8	4.4
麵 類	4	2.2
カ レ	2	1.1
酢 物	2	1.1
納 豆	2	1.1
卵	2	1.1
調 理 加 工 品	2	1.1
パ ン	1	0.5
佃 煮	1	0.5
牛 乳	1	0.5
ダ ン ゴ 汁	1	0.5
果 物	1	0.5
消化の悪い物	1	0.5
老化をはやめる物	1	0.5
計	183	100.0

表 14 老人クラブ会員女子のいちばん
食べたくない物

食 品 名	例 数	百分率 (%)
とくになし	139	49.8
肉 類	31	11.1
味覚や感覚的に 不快な物	23	8.2
魚 類	16	5.7
油っこい物	13	4.6
野 菜	12	4.3
香辛料・刺激物	9	3.2
果 物	6	2.1
大 豆 製 品	5	1.8
酢 物	5	1.8
乳 製 品	4	1.4
い か も の	3	1.1
菓 子	3	1.1
卵	2	0.7
酒	2	0.7
そ ば	1	0.4
冷 凍 食 品	1	0.4
洋 風 料 理	1	0.4
汁 物	1	0.4
ホルモン料理	1	0.4
山 菜 料 理	1	0.4
計	279	100.0

④ 老人クラブ会員について

老人クラブ会員男子における「いちばん食べたく

ない物」は、表13に示すように、とくになし(51.9%)、魚類(9.8%)、塩辛い物、辛い物、甘い物、かたい物という味覚や感覚的に不快な物(9.3%)、野菜(6.7%)、肉類(6.7%)が上位を占めている。

老人クラブ会員女子における「いちばん食べたくない物」は、表14に示すように、とくになし(49.8%)、肉類(11.1%)、味覚や感覚的に不快な物(8.2%)、魚類(5.7%)、油っこい物(4.6%)が上位を占めている。

老人クラブ会員における「いちばん食べたくない物」の男女による差は、著明でない。

「いちばん食べたくない物」を「いちばん食べたい物」と同様にとくになしと答えたが首位を示していることは、特徴的である。

「いちばん食べたくない物」を、とくになしと答えた者を、年齢別に比較すると、小学生は18.8～19.1%、地方公務員11.7～19.7%、女子短期大学生は11.4%、老人は49.8～51.9%であり、これも老人がもっとも多いことは注目され、その理由は今後の研究課題である。

われわれの老人の嗜好調査(1972)⁶⁾では、嫌いな食品は、男はハム、ケーキ、天ぷら、女はハム、牛乳、天ぷらが上位を占めており、油っこいもの、牛乳が嫌われているのがみとめられた。

つづいて行ったわれわれの老人の嗜好調査(1975)⁷⁾では、男の老人の牛乳が好きな率は71.2%であり、女の老人の牛乳が好きな率は50.9%であり、男女差をみとめた。

本調査においては、牛乳が嫌いというものは、男はわずか1例、女は4例にしかすぎず、前の調査とはかな

り異なった分布を示している。

本調査における老人の「いちばん食べたい物」は、とくになしがもっとも多く、次いで果物、野菜、肉、魚であり、「いちばん食べたくない物」も、とくになしがもっとも多く、魚、野菜、肉、塩辛い物、辛い物、かたい物といった味覚や感覚的に不快な物が多いことを示している。

ま と め

われわれは、北九州市における小学生153例（男は68例、女は85例）、女子短期大学生519例、地方公務員233例（男は173例、女は60例）、老人クラブ会員462例（男は183例、女は279例）、計1,367例について、「いちばん食べたい物」、「いちばん食べたくない物」はなにか質問した。

1) 小学生における「いちばん食べたい物」は、男女とも肉料理、果物、アイスクリームが上位を占め、「いちばん食べたくない物」は、野菜が首位を占めていることは注目される。野菜が嫌いなのは、意識だけのものか日常生活においても摂取していないかは、今後の課題である。

2) 地方公務員男子における「いちばん食べたい物」は、肉、果物であり、「いちばん食べたくない物」は野菜であり、地方公務員女子の「いちばん食べたい物」は菓子、果物であり、「食べたくない物」は野菜、肉、納豆である。小学生と同様に野菜の嫌いな理由は、今後の課題である。

3) 女子短期大学生の「いちばん食べたい物」は、果物、アイスクリームであり、「いちばん食べたくない物」は野菜、肉、魚である。

4) 老人の「いちばん食べたい物」は、男女とも、果物、肉、魚が上位を占め、「いちばん食べたくない物」は、魚、野菜、肉、塩辛い物、辛い物、かたい物といった味覚や感覚的に不快なものが上位を占めていることが特徴的である。

稿を終るに当たり、本調査に御協力をいただいた北九州市立引野小学校、九州女子短期大学、北九州市市役所、戸畑老人クラブの各位に深く感謝します。

文 献

- 1) 園田直人、江口加代子：栄養学雑誌，28 (4)，149 (1970)
- 2) 園田真人，高橋純子：臨床栄養，34 (6)，649 (1969)
- 3) 園田真人，大和昭恵：健康教室，307，41 (1976)
- 4) 西見真知子：保健の科学，12 (6)，315 (1970)
- 5) 園田真人，江口加代子：臨床栄養，40 (3)，335 (1972)
- 6) 園田真人，野口球子：臨床栄養，41 (4)，497 (1972)
- 7) 園田真人，石橋幸子：保健の科学，17 (4)，245 (1975)
- 8) 園田真人：臨床栄養，56 (3)，271 (1980)
- 9) 園田真人：食品工業，12，57 (1972)
- 10) 園田真人：日本公衛誌，18 (10)，379 (1971)

(受付：昭和55年9月20日)